



立川市議

東京都立川市 大沢 ゆたか さん

Q 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

A 1950年生まれの68歳で、出身は熊本県熊本市です。阿蘇山の広大な裾野から生み出される湧き水の豊富な町で生まれ育ちました。水道水も100%地下水で、夏でも冷たく柔らかくおいしいというのが水に関する意識の奥に刷り込まれています。

大学時代は山口で物理学を勉強し、一方で政治に関心を持つようになりました。大学時代も農家の庭先のプレハブに住んでいましたので井戸水を使っていました。

1975年に東京に出てきて、初めて東京駅の地下食堂で飲んだ水のまずさに恐れおののきました。臭くてまずい水でした。「こんなところで生活できるのだろうか?」という不安でした。

1977年から立川市に引っ越し、当時は100%が地下水の出る地域でしたので水のおいしさに安心をしたものです。現在では地下水が40%ほどになっています。

Q ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか?

A 1993年に出来た映画「水からの速達」を観てからです。

当時、日の出町で稼働中の谷戸沢処分場での遮水シートの破れで、ごみの層を通過した雨水が汚染水となって地下水を汚していることを科学的に示した映画でした。

ごみ処分場の建設をめぐる反対運

動が始まり、日の出町在住の田島喜代恵さんが立川に来て説明をされました。遮水シートからの汚染水が漏れて近隣の井戸が使えなくなったり、三多摩のごみを燃やした焼却灰のいい加減な埋め立て方で、ごみに混じった粉塵やダイオキシンを含む微細なほこりが周辺環境に大きな影響を与えていたと聞きました。

立川市から出している私たちのごみの焼却灰が日の出町の人たちに大きな影響を与えていることにショックを受けました。そして、立川でごみ問題を考える「みみずの会」を、会長になっていただいた鎌田裕さんと共に立ち上げました。

Q ごみ問題に関すること以外に、趣味や生きがいは何ですか?

A 当時の趣味はトライアル用のオートバイで、よく日の出町などの山の中を走っていました。美しい日の出町の裏山にごみ処分場を作ることが許せない思いでした。

Q ごみかん入会して下さったきっかけは?

A 実は今年7月の立川市議会議員選挙には立候補せず、5期20年の議員活動から退任することを決めました。20年…ちょうどごみかんの歴史と重なり、私とごみかんの関わりは、日の出処分場問題と私の議員活動を振り返ることにもなります。

1994年に二ツ塚処分場内の土地を入手し、トラスト運動が始まりました。後に私はそのトラスト運動の事務局長を務めました。

日の出ごみ問題に当初から関わっていらっしゃた立川市議の島田清作さんに土地収用の経験を教えてもらいながら、東京都収用委員会を相手にトラスト運動が続くことになりました。

その島田清作さんが、1998年の立川市議会議員選挙で引退され、今度はバトンタッチで私が議員になりました。

当時は、ごみ問題は大きな環境問題であり、また政治課題でもありました。そんな時「ごみ・環境ビジョン21」が発足したので、すぐに入会しました。

市民運動だけではなかなか繋がりにくい行政や事業者と連携が取れ、こうした人たちの話が聞ける機会をたくさん作ってくれたことは大きな成果だと思っています。

立川市のごみ担当課長さんが出席された勉強会では、日頃バトルしている課長さんが一生懸命に勉強して、たくさんの資料を作ってきておられたことが印象深いことです。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことなどをお聞かせください

A 私たちは現在の課題でもあるプラスチックごみの海洋汚染などにも取り組まねばならないでしょう。こうした身近に感じづらい課題を、私たち生活者としての問題へと引き付けて、多摩地域でも解決すべき問題として提起し、「ごみっと・SUN」で発信していただきたいと思います。